バリアフリー推進レポート

中国運輸局では、「障害の社会モデル※１」、「心のバリアフリー※2」の啓発とその理解を深めることを目的として、学生や社会人を対象としたバリアフリー教室・各種啓発活動を継続的に実施しています。

近年、異常気象は激甚化、頻発化しており、災害発生時には、車椅子利用者にとって大きな障害が発生する場合があります。こうしたことから、この度、中国運輸局職員を対象に、車椅子利用者の避難をサポートするための知識・技術を身につけることを目的とした車椅子避難サポーター養成講座を開催しました。

徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科　教授　柳澤　幸夫　氏に講師を務めていただき、参加者は、椅子に関する基礎知識講座、車椅子避難サポート実技演習（水平避難演習、垂直避難演習）を行いました。

※1 障害の社会モデル…「障害は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である。」とする考え方。

※2 心のバリアフリー…様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと。
バリアフリー教室は令和２年のバリアフリー法改正に伴い「教育啓発特定事業」に位置付けられ、取組を強化しています。

開催概要

日程：令和8年9月7日（月）13：30～15：30
場所：広島合同庁舎4号館付属棟　海技試験場
対象：中国運輸局　若手職員　１５名
内容：車椅子に関する基礎知識講義
　　車椅子避難サポート実技演習（水平避難、垂直避難）
　　車椅子避難サポーター養成講座修了式
講師：徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科　教授　柳澤　幸夫
　　徳島文理大学地域連携センター防災避難サポート研究会会長。
　　令和元年から、徳島県・高知県・奈良県・和歌山県などで車椅子避難サポーター養成講座を開催している。





車椅子に関する基礎知識講座

講義内容

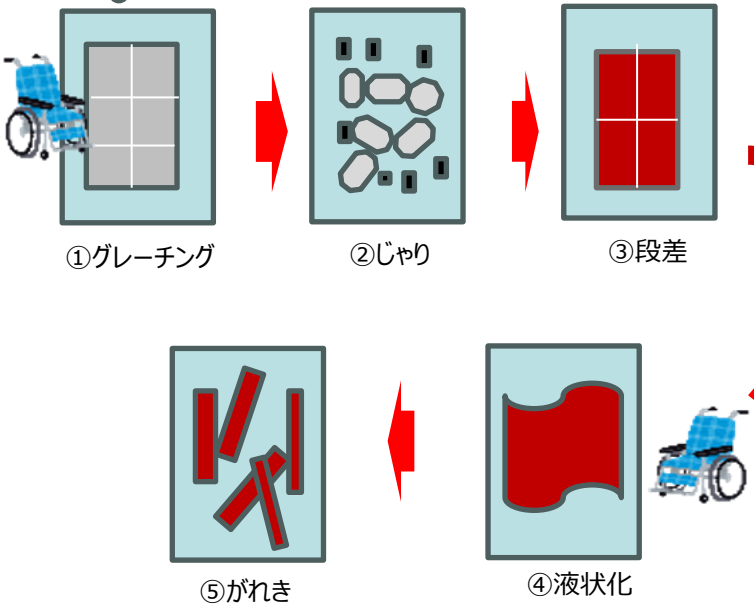
・過去の災害被災者の分析
・要配慮者、避難行動要支援者について
・車椅子、車椅子介助について
・水平避難・垂直避難について
・複数人での避難支援における分析
・避難支援時の補助器具の紹介







水平避難演習



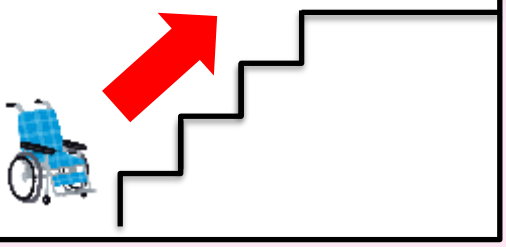
災害発生時に、避難での障害となる５つの場面を再現し、搬送方法を演習しました。
車椅子利用者、避難サポーターの両方を体験しました。

水平避難演習での参加者の気づき

・車椅子による避難支援は想像以上に体力や技術を要することを実感した。特に障害物を避ける際は、車椅子を大きく傾けて操作する必要があり、知識として理解していた内容と実際の感覚には大きな差があり体験して初めて気づいた。
・グレーチングや小さい段差など歩いているときには気づきにくいが、車椅子が通りにくい道が意外と多いと思った。乗り慣れていないからか、少し傾けられただけでも怖かった。
・車いすは自分が思っていたよりも重かったし、障害がある場所は前輪をあげて動かすという知識を初めて知ることができた。
・段差などを通るときは、車椅子を斜めにするとスムーズに押すことができた。

垂直避難演習

車椅子利用者を上階まで搬送するための車椅子の搬送方法について演習を行いました。





垂直避難演習での参加者の気づき

・階段での車椅子介助において、車輪を活用して移動する方法があることを初めて知った。実際に体験すると想像以上に楽に移動でき、介助者の負担を大きく軽減できることを実感した。非常時には限られた体力の中で迅速な避難支援が求められるため、こうした技術や知識の有無が避難の円滑さや安全性に大きく影響することを学んだ。
・今回使用した人形が40kgだったのでまだ楽に上げることができましたが、60kgぐらいになるともっと力や、体力が必要そうになりそうで、かつ1人しかいない状況では無理なので、建物自体を工夫できると垂直避難もしやすいと思いました。
・前の方が力が必要であるといった知識は今回参加しなければ知ることはなかったので、実際その場面になった時には活かせればと思う。

車椅子避難サポーター養成講座　修了式

柳澤教授から参加者へ修了証とサポーターリングを授与いただきました。





私生活や今後の業務に活かせること

・災害時じゃなくとも私生活で車椅子の方が困っている時などに助けることができると思いました。
・災害が起きた際やそれ以外の時にも車椅子の操作で困っている方がいれば、今回の研修で習得した知識を活かして行動したいと思う。
・車椅子について基本的な知識を身につけておくことで、いざという時に早く行動することができると感じる。
・災害時だけでなく、平常時にも何かあれば手を差し伸べる自信が少し付いたと思う。
・介助技術は特別な場面だけでなく、日常生活や災害時にも役立つ知識であると感じた。人を搬送する際の正しい持ち方は、車椅子利用者だけでなく、けが人や体調不良者への対応にも応用できる。